

# 設置工事説明書

## (屋内式) 電気スチーマ

品名	GX-7SE2
型式名	GX-7SE2

### 工事される方へ...

→この機器を正しく安全にご使用いただくために、この工事説明書に基づいて設置してください。条件を外れた設置が原因で生じた故障及び損傷は、保証期間内でも有料となります。この説明書は必ずお客様にお渡しください。

### お客様へ...

→本製品は一般家庭用の製品です。従って使用頻度の高い業務用にご使用の場合は、安全確保のために必ず定期点検(有料)を受けてください。定期点検を受ける先が不明の場合は、末ページの当社にお問い合わせください。

## 設置工事後の点検

設置工事が終わったら下記のチェックリストに基づいて必ず再確認を行なってください。

### ●チェックリスト

点検項目	点検内容	参照項目	チェック
機器及びその周辺	電源(電圧・周波数)	銘板は使用する電源電圧(200V)・周波数(50/60Hz)に適合していますか。	1
	可燃物との離隔距離	可燃物との離隔距離・火災予防上の措置は十分ですか。	3
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか。	3
	水平・安定設置	水平に設置され、ガタツキはないですか。	4
	転倒防止措置	転倒の恐れはありませんか。	4
電気工事	電源工事は指定された工事がされていますか。		7
	アース線の接続は確実ですか。		7
	配管接続部からの水漏れはありませんか。		5
給水スチーム排水配管	保温を完全に行いましたか。		5
	排水配管は、間接配管になっていますか。		5

## 1 安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

- 危険** この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
- 警告** この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
- 注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)

- このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
- このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

### 機器の設置基準

- 次の法、基準、指針、条例に従って設置してください。
  - 建築基準法 ●電気設備技術基準 ●消防法に基づく火災予防条例に定める防火処置
  - 当該地区の市・町・村火災予防条例

### 危険

■浴室など、湿気が多い場所または蒸気のかかる場所に設置しない

水分により漏電が生じ、火災や感電、機器故障の原因となります。

### 警告

■200 V電源には、必ず電気スチーマ用の専用回路・漏電ブレーカ(40 A)を付ける

漏電した場合、感電の原因となります。

### 警告

■銘板に表示の電源(電圧・周波数)を使用する

他の電源を使用すると機器が正常に動作しなくなり、過電流が流れた場合、発熱・発火し、火災の原因となります。

■ガソリン、ベンジン、灯油、接着剤などの引火性の危険物を扱う場所には設置しない

火災の原因となります。

■排水状況を確認し機器が冠水するような状態に設置しない

漏電が生じ、火災や、感電、機器故障の原因となります。

### 注意

■スチームバス浴室として設計・施工された浴室に使用する(浴室は防水・防湿・断熱処理を必ず行なう。)

上記の施工がされていない所で使用すると、湿気による家屋損傷の原因となります。

■排水配管は水道用亜鉛めっき鋼管または耐熱塩ビ管を使用する

排水温度は約100℃です。他のものを使用すると破損し、水漏れなどの原因となります。

■スチーム配管は脱酸鋼管を使用する(鉛管配管・塩ビ配管は絶対に使用しない。)

他のものを使用すると、破裂しスチームが漏れ、やけどの原因となります。

■アース接続する

漏電が生じた場合、感電の原因となります。

■クリーニング店・工場などで使用される業務用薬品(アンモニア・イオウ・塩素・エチレン化合物・酸類など)を使用する場所には設置しない

塩素系溶剤は腐食性ガスの発生により金属がさびたり、また機器故障の原因となります。

■車両・船舶への設置はしない

振動により機器が転倒し、火災や機器故障の原因となります。

■可燃性ガスの漏れる恐れのある場所に設置しない

ガスが漏れて機器の回りに溜まると、爆発や火災の恐れがあります。

■階段、避難口近くへの設置は避ける

緊急時の避難がスムーズにできなくなります。

■屋外に設置しない

雨水などにより感電や機器故障の原因となります。

## 2 同梱部品の確認

区分	部品名	個数	形状	区分	部品名	個数	形状
浴室用同梱品	浴室リモコン	1		浴室用同梱品	ケツクバンド	5	
	フツシャ(小)入木ねじ	2		その他	スチーム吐出器	1	
	PYプラグ	2		その他	排水ホース(ホースバンド・スプリング付)	1	
	チューブ	1					

## 4 機器の設置

- 機器本体の設置
  - 排水タンクを使用の場合は、水平な床の上に置いてください。
  - 機器を排水タンクの上に据え付けてください。

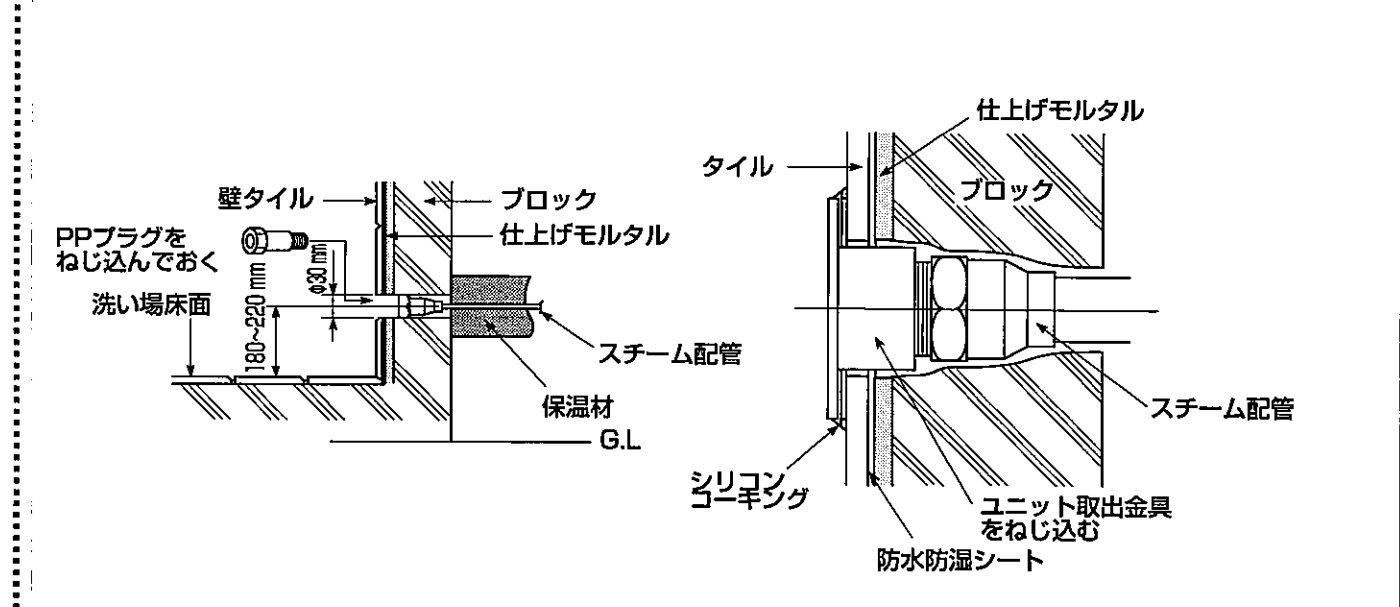
### スチーム吐出器の取付方

■ユニットバスの場合

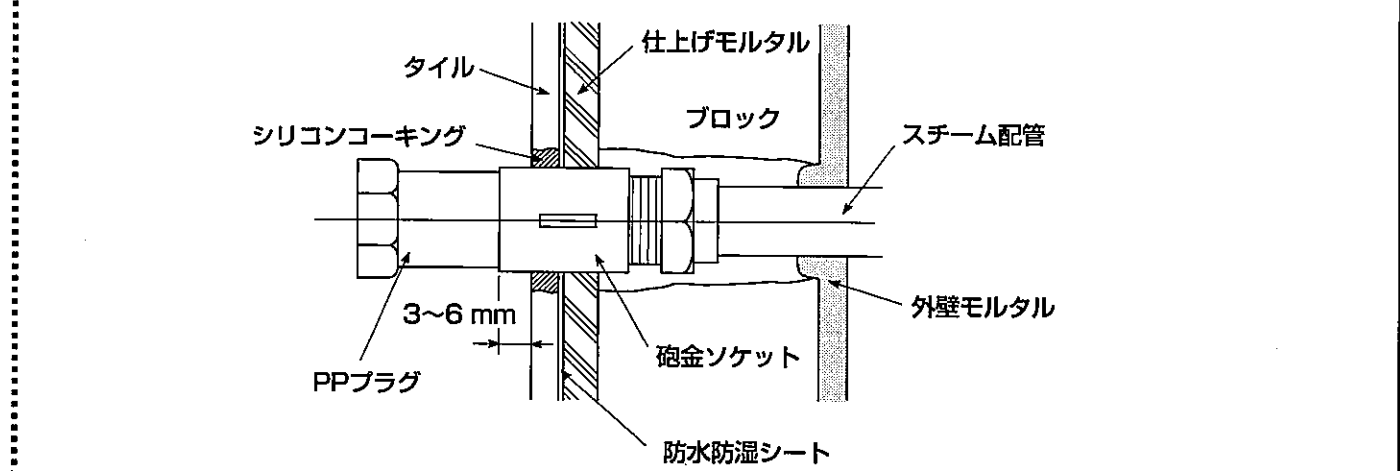
浴室用同梱品

### 乾式工法によるタイル浴室の場合

(1)ユニット取付金具を使用する場合

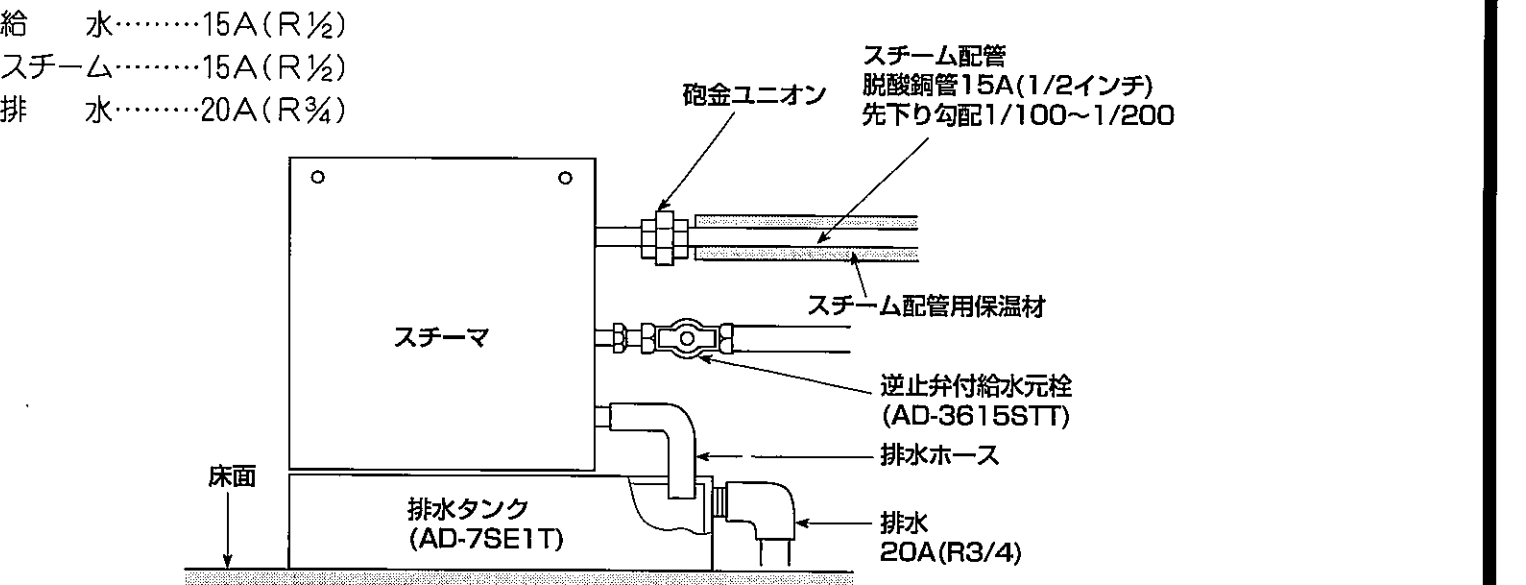


(2)ソケットを使用する場合<スチーム吐出器取付部>



## 5 給水・スチーム・排水配管工事

■機器配管接続図  
機器本体回りの配管接続は、下図の通り行なってください。



- 配管工事は、給水事業者の指定工事に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。
- 配管接続口は、給水・スチームとも15A(R1/2)となっています。 ※「水」「スチーム」「排水」の配管表示は、本体に刻印しています。必ず確認してください。

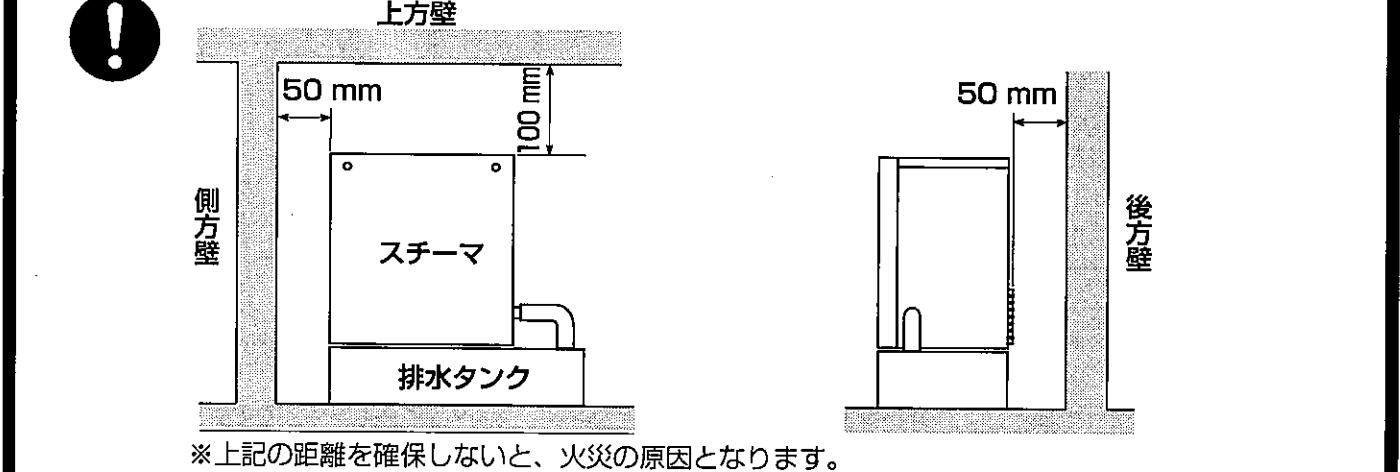
- ### ■給水配管
- (1)給水圧力について
    - この機器の使用水量は約160cc/分で大変少量です。機器の設置水圧を考慮する必要はありません。
    - 特に高水圧地域では、減圧弁を取り付けてください。
    - 給水管は、水道管より直接配管してください。
    - ポンプでの使用もできます。(ポンプの出力は考慮する必要はありません。)
  - (2)機器の給水接続口の近くには、必ず給水元栓を取り付けてください。
  - (3)給水管の接続口を間違えないようにしてください。
    - 給水口を間違えると機器が破損します。
  - (4)機器に接続する前に必ず水を流して配管内のごみを排出してください。

- ### ■スチーム配管
- (1)配管は脱酸鋼管を使用してください。
    - 鉛管配管・塩ビ配管の使用は絶対に避けてください。
  - (2)機器は浴室の近くに取り付け、スチーム配管はできるだけ短距離にしてください。(18m以下のこと)
  - (3)継ぎ手類はできるだけ少なくし、複雑な配管は避けてください。
  - (4)スチーム配管は15A(1/2)以上にしてください。
  - (5)スチーム配管は必ずスチーム用の保温材(商品名:パイプガードフレックス)をご使用ください。屋外配管にも使用できます。(カタログ参照)

## 3 設置場所の確認

設置場所を決められるときは、次の項目をよく確認してから決めてください

- 周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔を取ることができる場所に設置する(可燃材料・不燃材料とも同じ間隔です。耐火構造の場合、上方のみ100mm 側方、後方の規制はありません。)

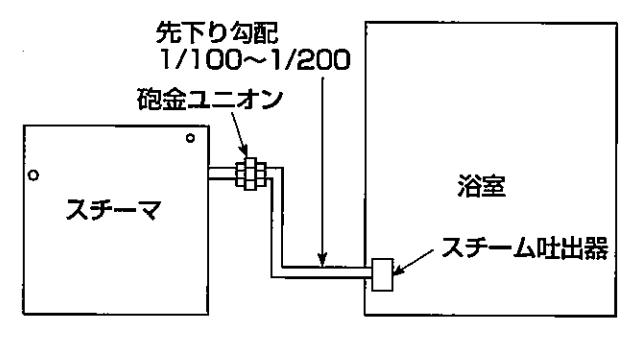


- スチーマを設置する浴室の壁は必ず断熱材が入っていることを確認する
- 機器の点検・修理ができるように十分なスペースを確保する(機器の前方は600mm以上の空間を設けてください。)

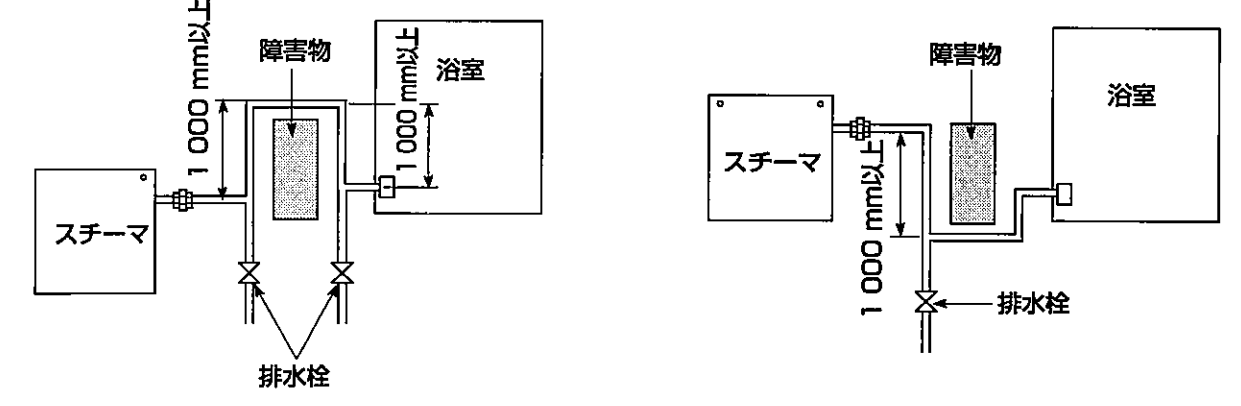


# 5 給水・スチーム・排水配管工事

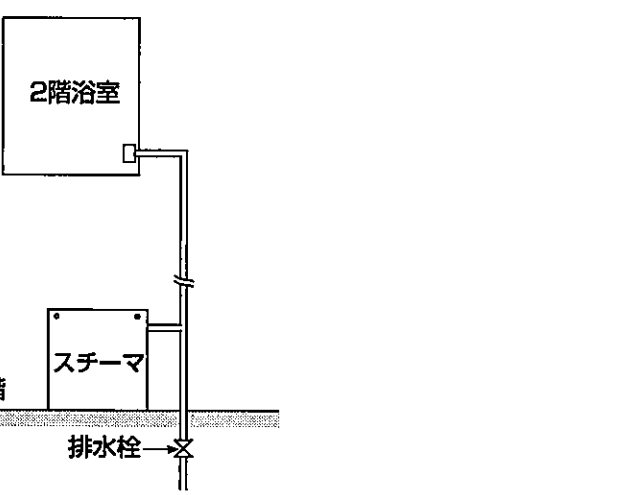
(6) スチーム配管は、凝縮水が自然に抜けるように1/100~1/200 先下り勾配を付けてください。  
 (7) 機器とスチーム配管の接続は抱金ユニオンを使用してください。(ナット付銅管アダプターは使用しないでください)



(8) スチーム配管が万一、下図のようになったときはスチーム凝縮水が抜けなくなりますので必要な箇所に排水栓を付けてください。凍結予防のためです。ただし、立ち下がり1000 mm以内なら、排水栓は不要です。



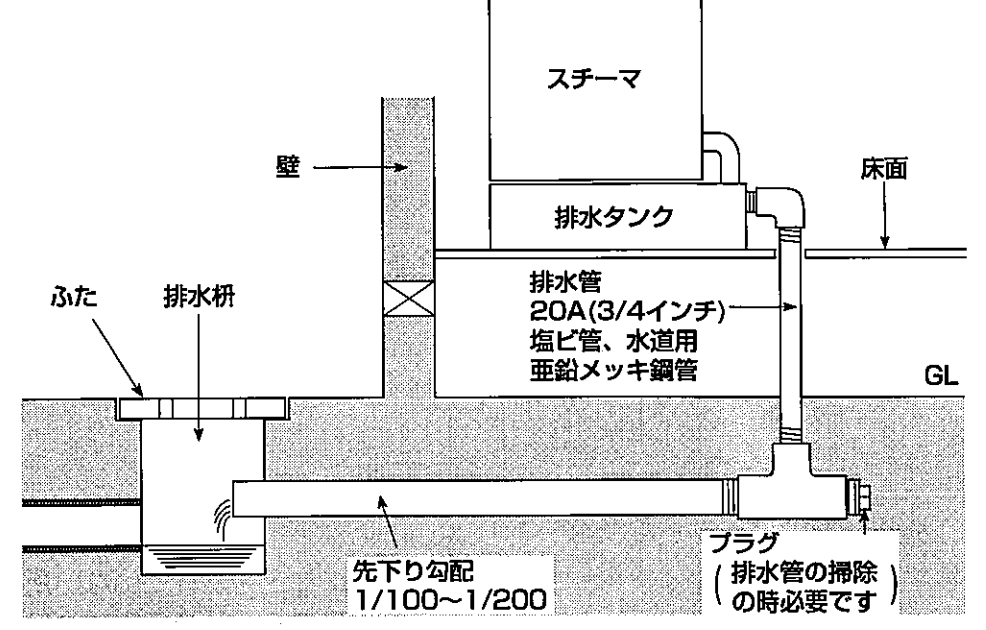
(9) 2階の浴室へスチームを供給する場合は、最下部に排水栓を付けてください。凍結予防のためです。



(10) スチームの供給は必ず1箇所にしてください。付属のスチーム吐出器以外は取付けしないでください。  
 (11) スチーム配管の途中に弁類は絶対に取り付けしないでください。  
 (12) スチーム配管工事後必ず空気圧か水圧を加えて漏れ検査をしてください。(2 kg/cm以上)

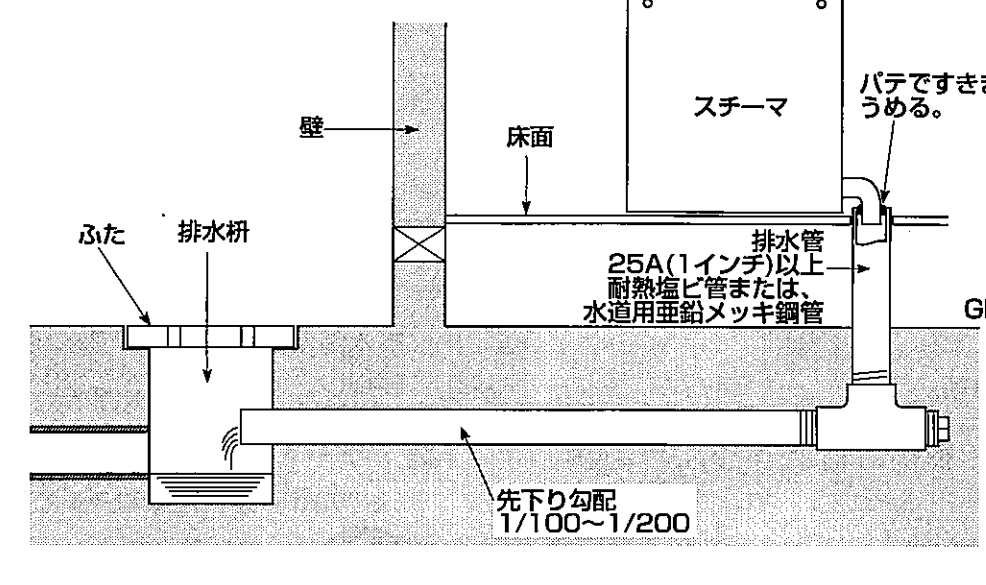
- 排水配管
- 排水管はできる限り短くしてください。
  - 機器の近くに排水枡を付けてください。

## 例1. 排水タンクを使う場合

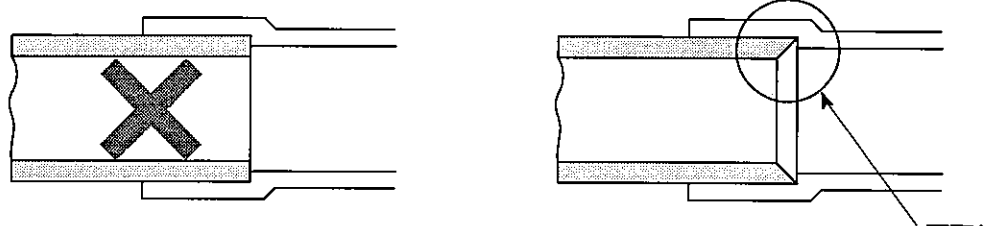


## 2. 排水タンクを使わない場合

- 排水管はスケール片も流れますので曲がりが多すぎますと詰まります。
- 図のように必ず間接排水にしてください。



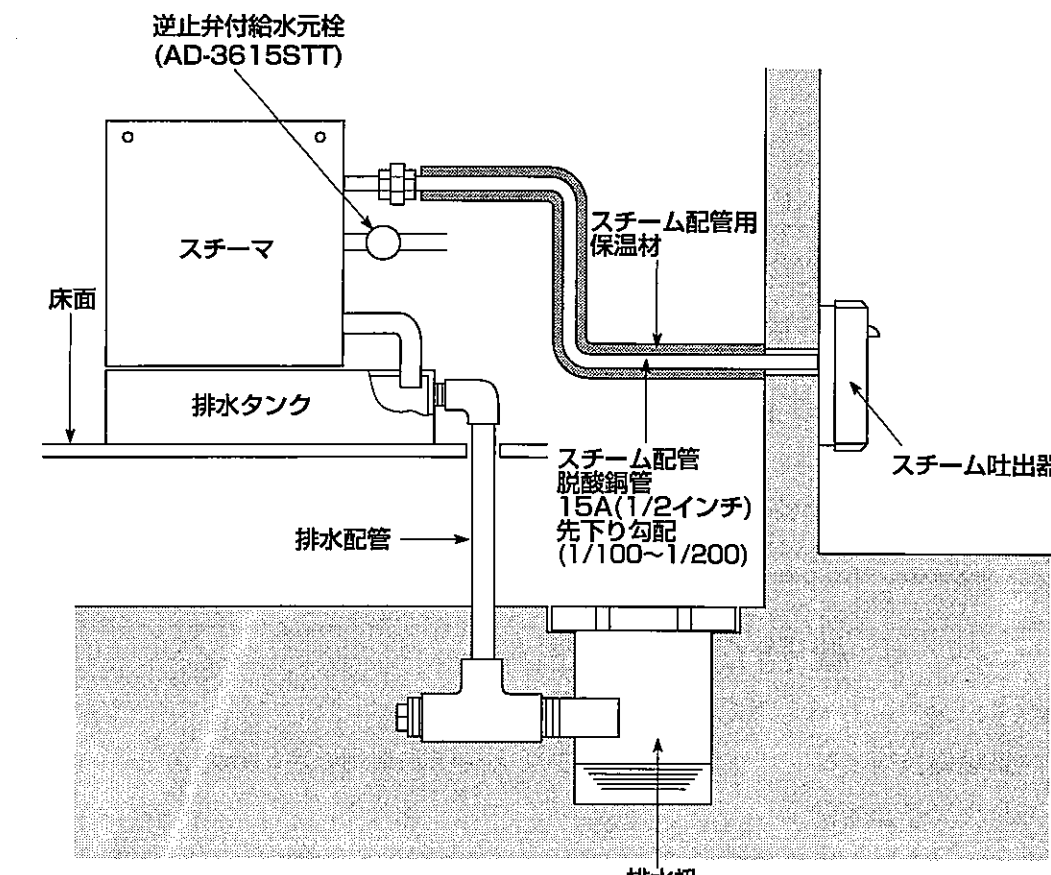
- 排水配管に耐熱塩ビ管を使用される場合は必ず図のように面取りをしてください。面取りをしないとスケール片が詰まります。



排水の温度は100℃です。必ず耐熱塩ビ管をお使いください。

## ■給水・スチーム・排水配管例

- 給水配管材料、接続方法、シール材は、各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- スチーム配管は、脱酸銅管をご使用ください。
- 機器の給水接続口近くに逆止弁付給水元栓を取り付けてください。
- 内部のこみ、工事材料くすなどを洗い出したらうえで接続してください。

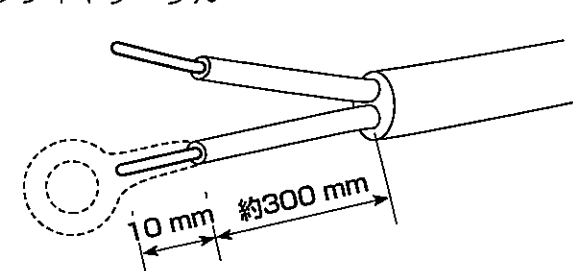


# 6 凍結予防工事

- 配管は必ず保温材(厚さ25 mm以上)で被覆してください。
- 冷え込みの厳しい地域では、さらにナショナル水道凍結予防器(品番:DR2232 30 W以上)を配管およびバルブ類に巻いて、十分な保温を行ってください。
- 水抜き栓は、保温材で包み込まないでください。
- 配管内の水抜きが容易できるように措置をしておいてください。

# 7 電気配線工事

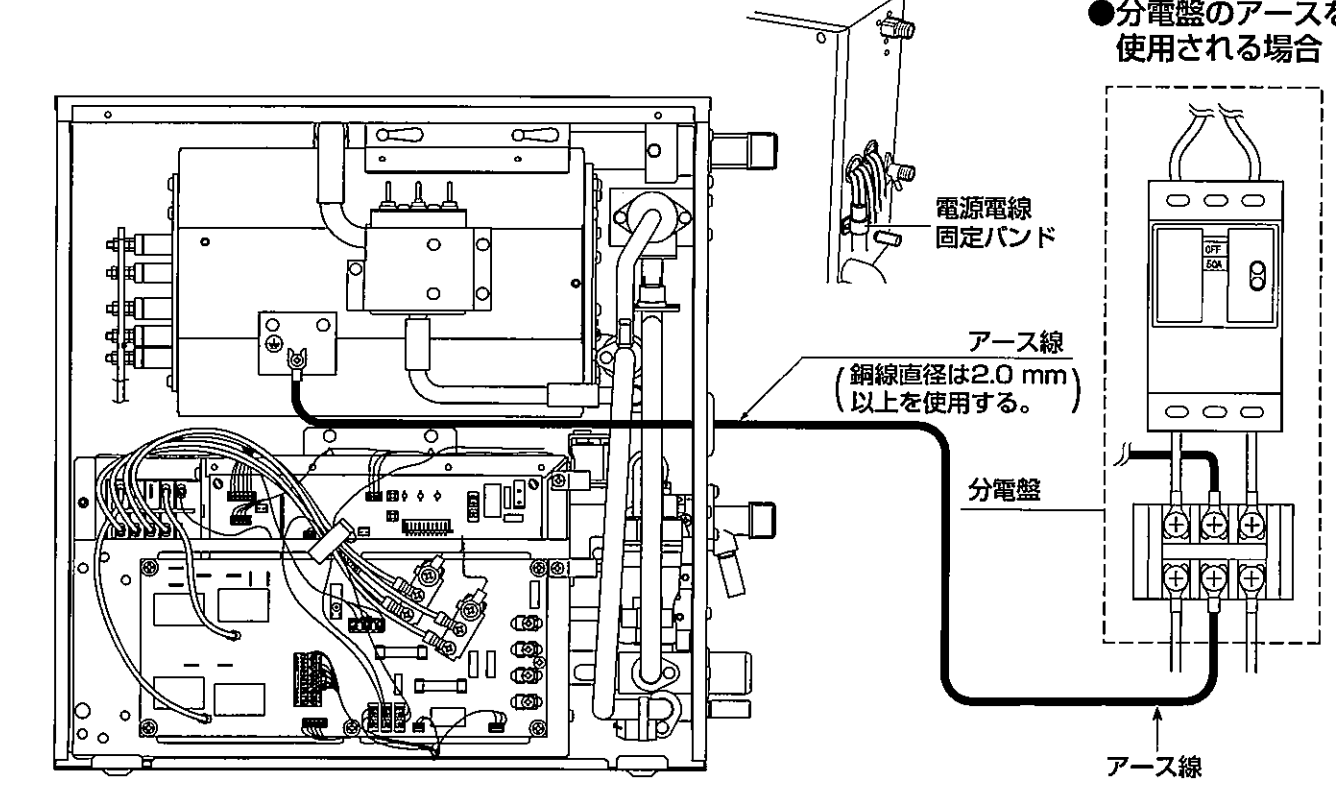
- 電源
- 使用電源の確認
    - この機器にはAC200 Vの電源が必要です。
    - 200 V電源には、必ずスチーム用の専用回路・漏電ブレーカ(40A)を付けてください。
    - 電気配線については、電力会社の指定工事店に相談してください。
  - 電源電線の種別
    - φ3.2(VVFケーブル)または8 mmキャブタイヤケーブル
  - 電源電線の端末処理
    - 規定通りの電源電線を使用し、端末は必ず圧着端子を所定の圧着かしめ工具でかためる。(かした後は、ハンダ付けをされませんことより確実です。)



(4) 電源電線は機器側面の電源電線固定バンドで必ず固定してください。

## ■アース(設置)工事

- 万一の感電事故防止のため、必ずアースしてください。



- 機器設備技術基準に基づき、必ず電気工事士による第3種接地工事(接地抵抗値100 Ω)を行なってください。
- 機器内部に接続端子があります。
- ※ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路または漏電安全装置を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。(法令などで禁止されています。)

# 7 電気配線工事

- 使用ケーブル線
- 機器本体~リモコン間は、2心ケーブル線を使用してください。
  - ケーブル線は、動かないようにステップルなどで固定してください。
  - ケーブル線は、直接熱の影響を受けないところに配線してください。
  - ケーブル線をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管などに取めてケーブル線に傷がつかないように保護してください。
    - メタルラスなどを有する壁を貫通する場合には、メタルラスなどと金属電線管が接触しないように十分距離を確保してください。
  - ケーブル線の総延長が20 m以内になるように配線工事を行ってください。
  - ケーブル線を電線管に入れて配線をする場合は、ケーブル仕上がり外径は、端子をケーブルにかしめる前後とは異なりますので注意してください。

形態	端子をかしめないもの		端子をかしめたもの	
	ケーブル	端子	ケーブル	端子
条件	2心ケーブル...1本	端子	2心ケーブル...1本	端子
ケーブル外径 A	φ6.8 mm	端子	約φ13 mm以上	端子
※必要電線管内径	φ15 mm以上	端子	φ21 mm以上	端子

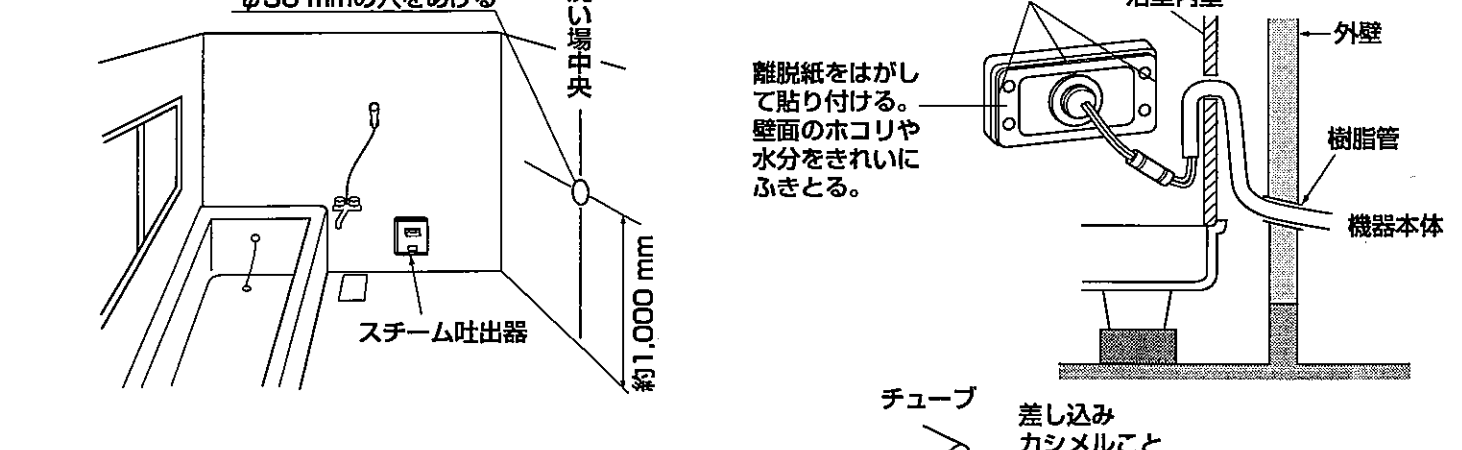
※ケーブル線の断面積は電線管断面積の40%以下のものとする。

■(2心シールド付)リモコンケーブル線の品番と長さ

品番	長さ	品番	長さ
GW-P102-3	3 m	GW-P102-15	15 m
GW-P102-5	5 m	GW-P102-20	20 m
GW-P102-8	8 m	GW-P102-50	50 m
GW-P102-10	10 m		

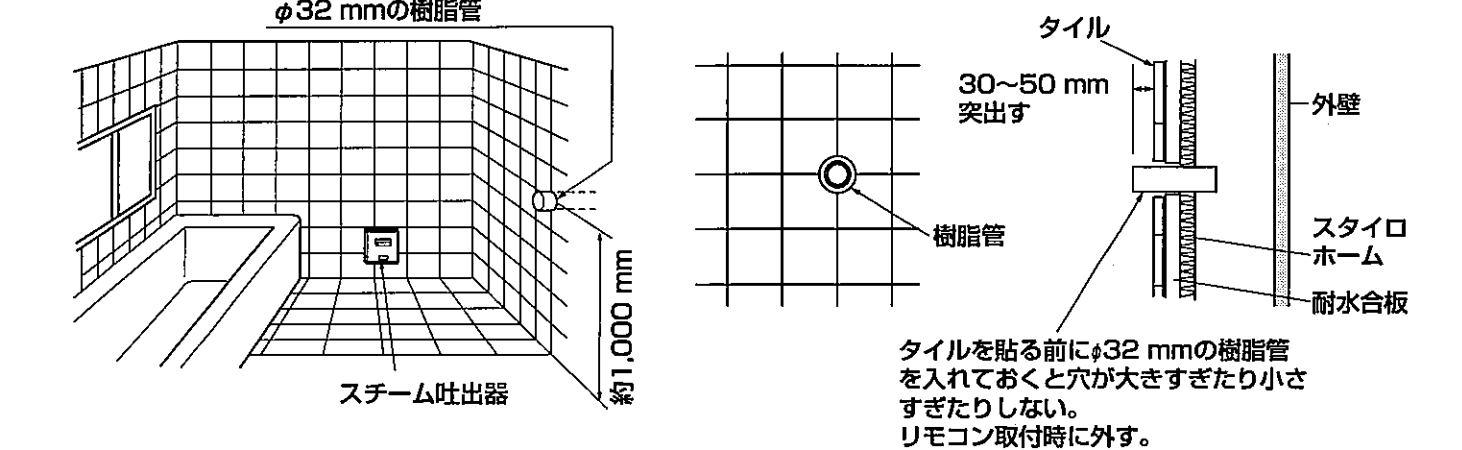
## ■浴室リモコンの取付方法

### ユニットバスの場合

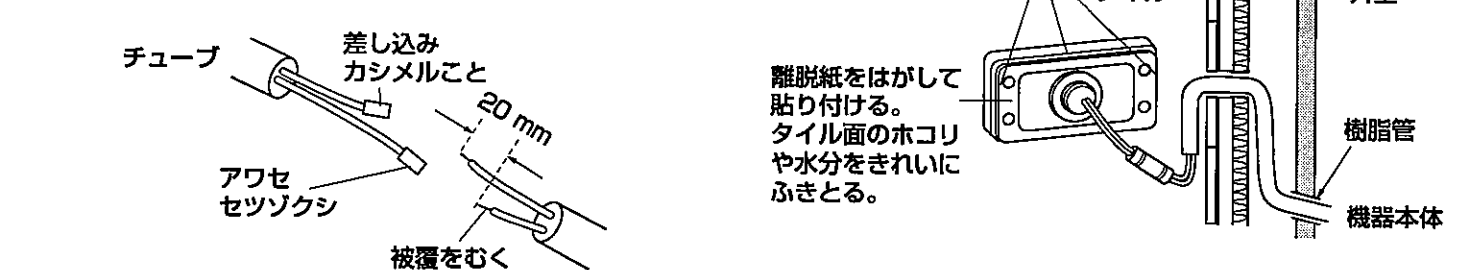


- ケーブル線の接続
- ケーブル線をチューブに入れる。
  - 被覆をむき、心線を約10 cm出す。
  - 心線をアワセセツソクシの中に入れてかしめる。
  - チューブでかしめ部をカバーし、ケツソクセンで結束する。

### 乾式工法によるタイル浴室の場合

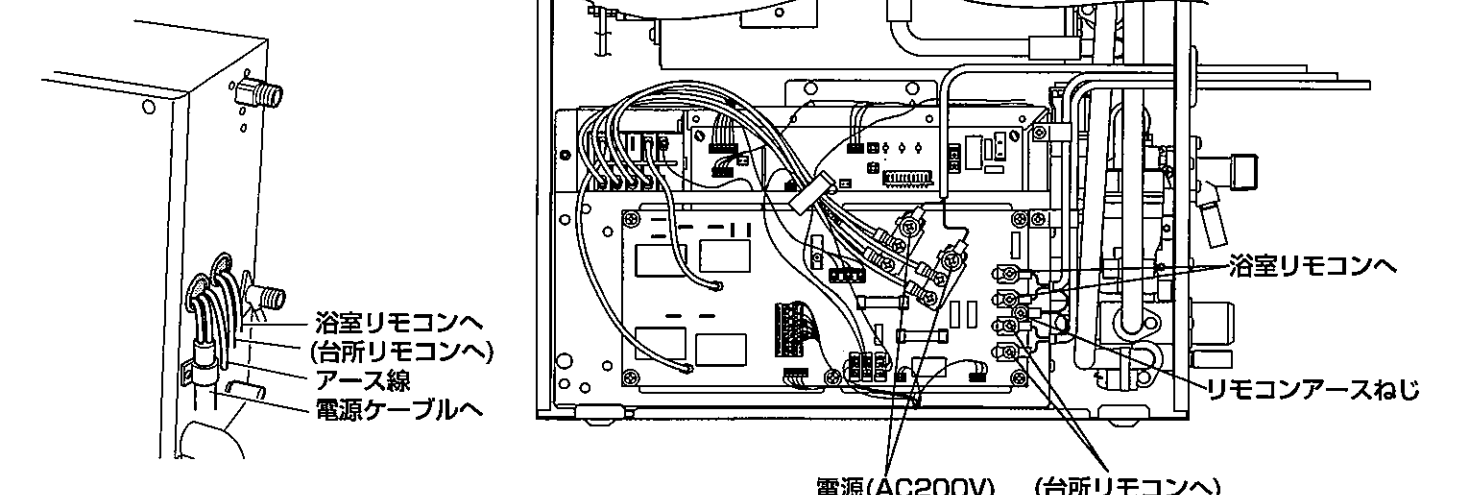


- ケーブル線の接続
- ケーブル線をチューブに入れる。
  - 被覆をむき、心線を約10 cm出す。
  - 心線をアワセセツソクシの中に入れてかしめる。
  - チューブでかしめ部をカバーし、ケツソクセンで結束する。



取付終了後、壁面と浴室リモコンの周囲をシリコンコーキングしてください。  
 ※シリコンコーキングは「ユニットバス」乾式工法による「タイル浴室」のいづれも必要です。

- 機器本体へのケーブル線接続方法
- スチーム専用回路のブレーカを「切」にしてください。
  - スチーム本体右側面のプッシングからケーブルを引き込んでください。
  - リモコン用ケーブル線は、電装ユニットにある端子台に接続してください。  
 ※ケーブル線は、ケーブル固定バンドで必ず固定してください。
  - ケーブル線のリモコンアース端子をリモコンアースに挿入してください。



⑤配線完了後、機器本体のフロントカバーを取り付けてください。(ねじ2本)

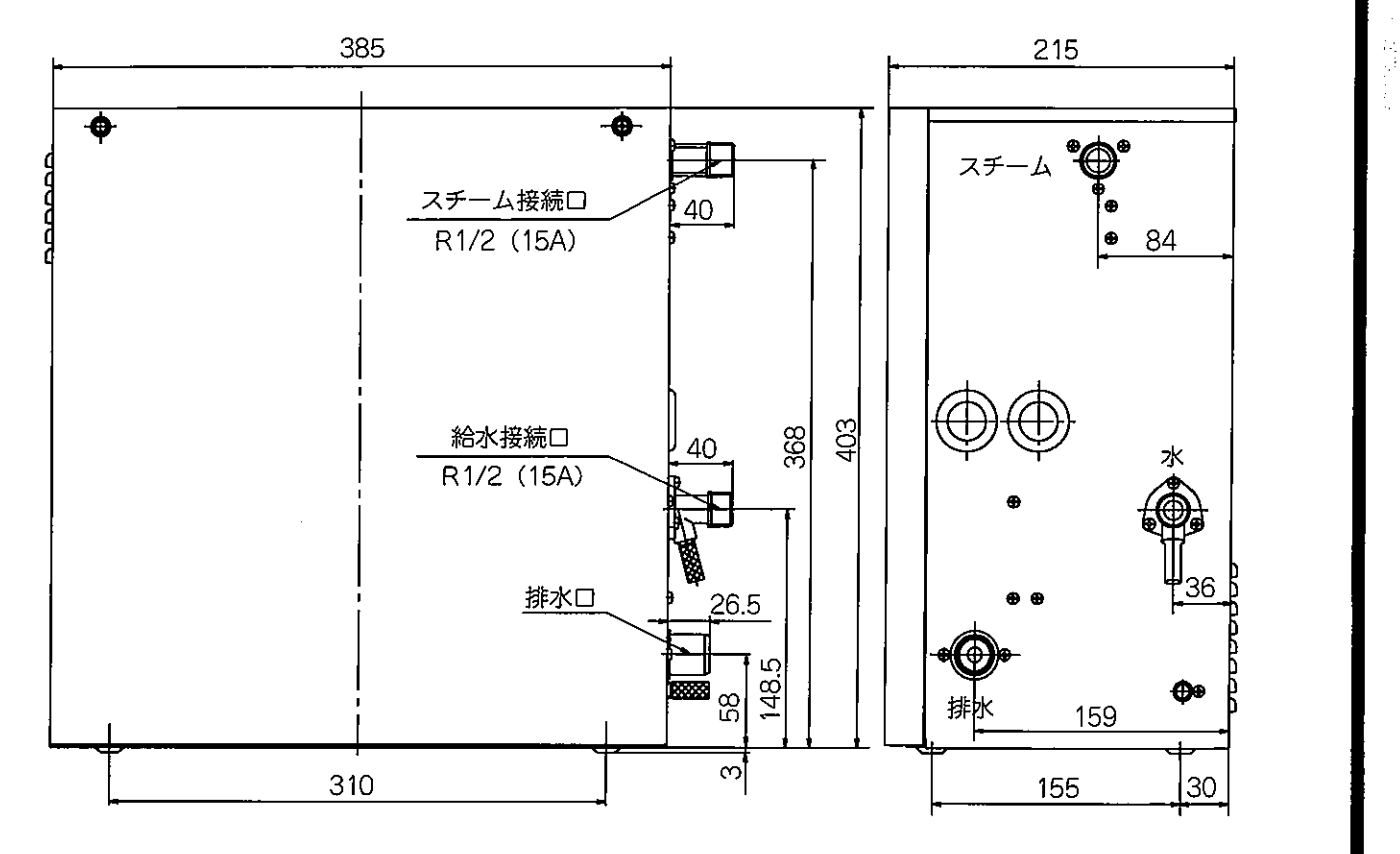
# 8 試運転

- 試運転
- 取扱説明書に基づき、試運転を行ってください。(操作のしかたは取扱説明書をお読みください。)
  - 初期運転時に異常が発生しましたら、取扱説明書の「故障かな?」を参照しながら確かめてください。
  - 試運転が終わりましたら、凍結予防のため、水抜きを必ず行ってください。水抜きを忘れた場合は、機器が破損することがあります。(水抜きの方法は取扱説明書をお読みください。)

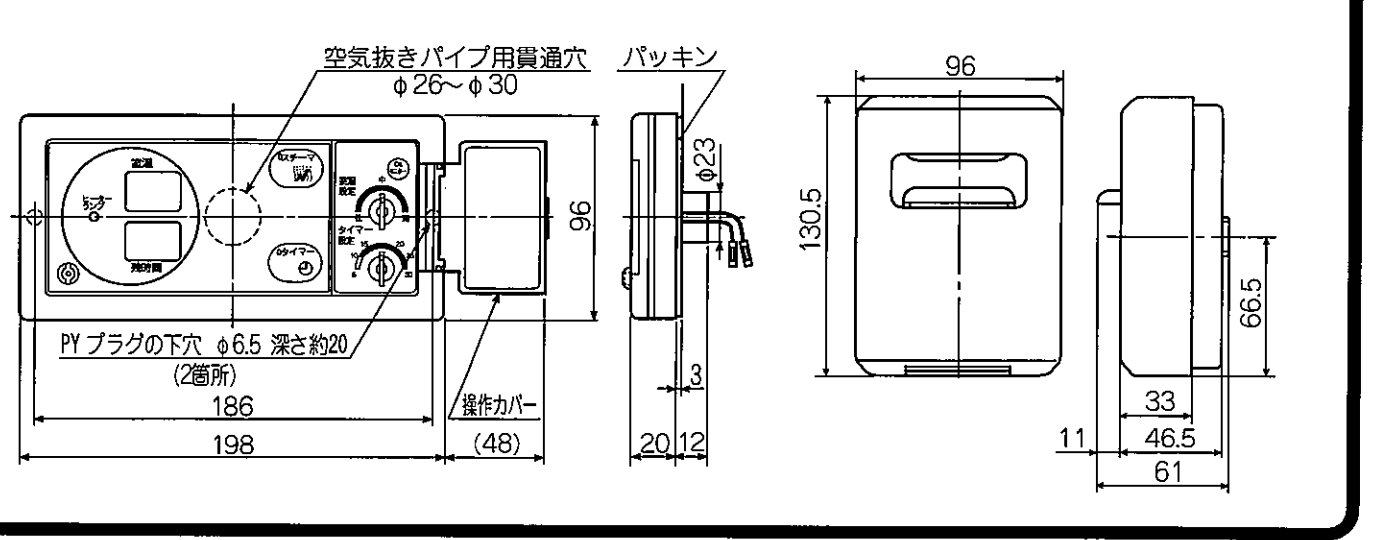
- お客様への説明
- 取扱説明書に従って「安全上のご注意」「使いかた」をご説明ください。
  - 保証書に必要事項を記入のうえ、お客様に渡してから、取扱説明書にしたがって「アフターサービス」についてご説明ください。

# 9 外形寸法図

## ■本体 (単位: mm)



## ■浴室リモコン ■スチーム吐出器



〈製造者〉 松下電器産業株式会社 リビングサポートシステム事業部  
 〒639-1188 奈良県大和郡山市筒井町800  
 ☎(0743) 56-1121